

# と き 時代のものさし～近世～

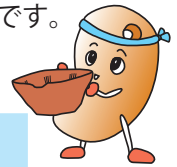
展示解説パンフレット

(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

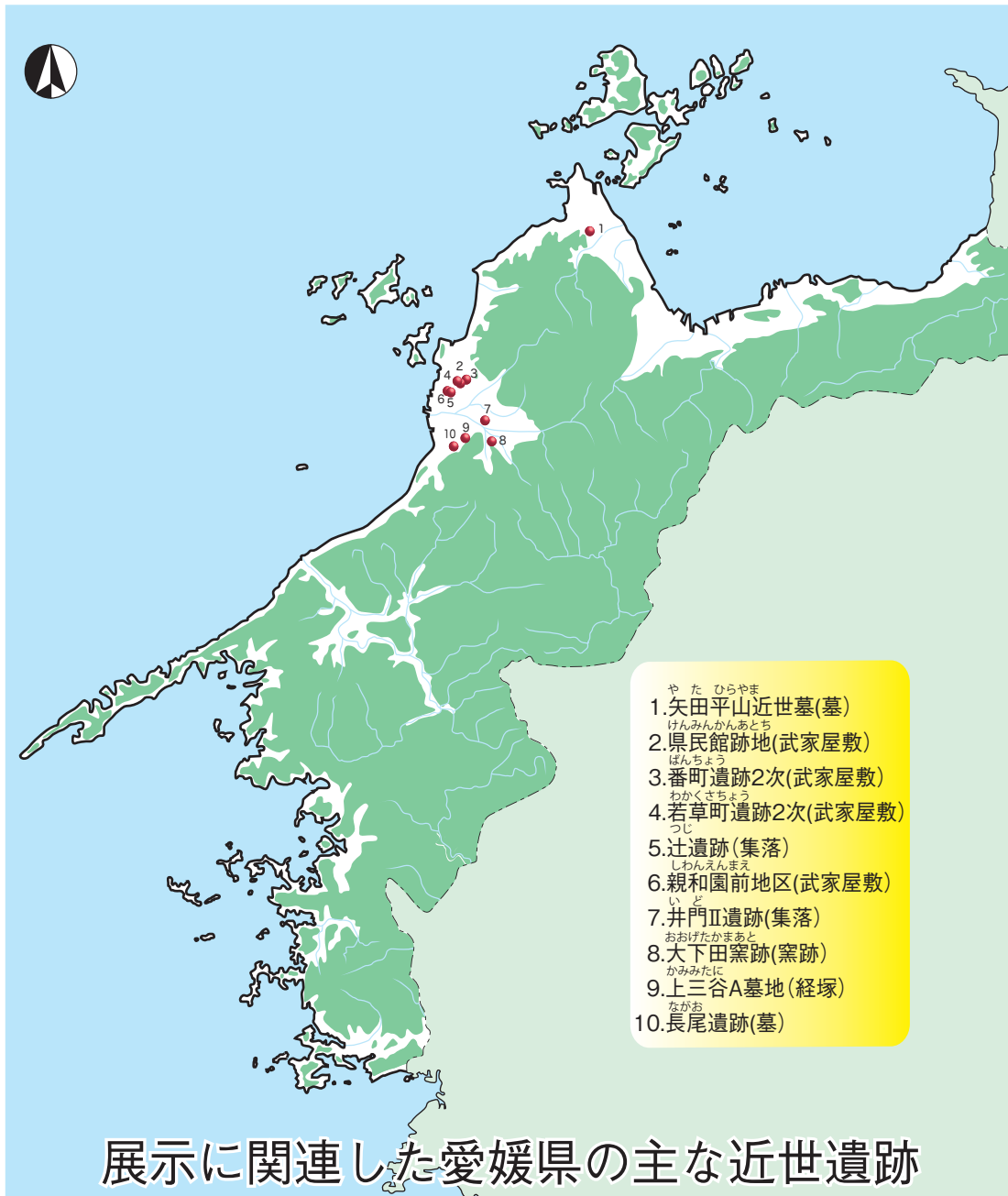
近世とは、江戸時代の初め（17世紀初頭）から幕末（19世紀前半）までをさします。  
本展では、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センターが調査した近世の遺跡をとりあげます。近世の陶磁器を年代順に並べるとともに、肥前陶磁器や瀬戸美濃焼の他に、伊予で生産された砥部焼や西岡焼、唯一、発掘調査された近世陶磁器の窯である大下田窯跡出土資料を紹介します。

主に松山城三之丸（堀之内）や周辺の武家屋敷から出土した、さまざまな「食」、「灯り」、「化粧」などの生活用具、ミニチュアの土人形やままごと道具などの「遊び」道具を特集します。

本展を通じて、江戸時代の伊予の人々の暮らしや文化に興味をもっていただければ幸いです。



まがたまお君



1. 矢田平山近世墓(墓)
2. 県民館跡地(武家屋敷)
3. 番町遺跡2次(武家屋敷)
4. 若草町遺跡2次(武家屋敷)
5. 辻遺跡(集落)
6. 親和園前地区(武家屋敷)
7. 井門II遺跡(集落)
8. 大下田窯跡(窯跡)
9. 上三谷A墓地(経塚)
10. 長尾遺跡(墓)

展示に関連した愛媛県の主な近世遺跡

## やきもののうつりかわり

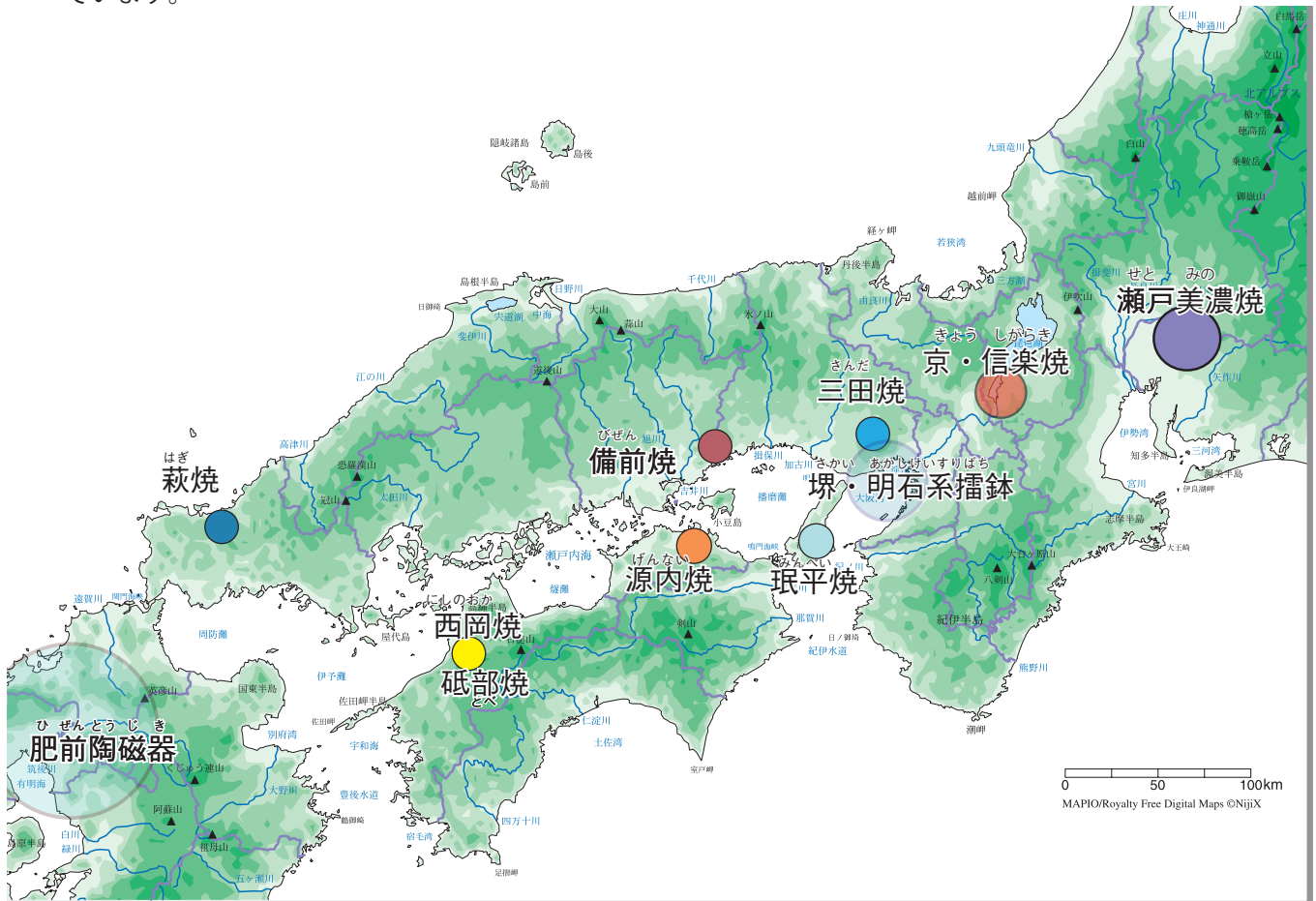
豊臣秀吉の朝鮮出兵による朝鮮半島からの陶工の渡来により窯業技術が改良され、九州北部で陶器、そして近世初期には国産の磁器が有田で初めて焼成されました。肥前陶磁器は全国に流通しました。

県内遺跡の出土資料では、前期は肥前陶磁器の占める割合が高く、中期には肥前陶磁器に京・信楽焼が加わり、後期には全国各地で陶磁器が焼成されるようになり、多くの産地の陶磁器で構成されるようになります。伊予の砥部でも安永6（1777）年に磁器が焼成できるようになりました。近世後期には、消費地の遺跡では、在地産も加わり多様な産地の陶磁器の組み合わせが一般的になります。

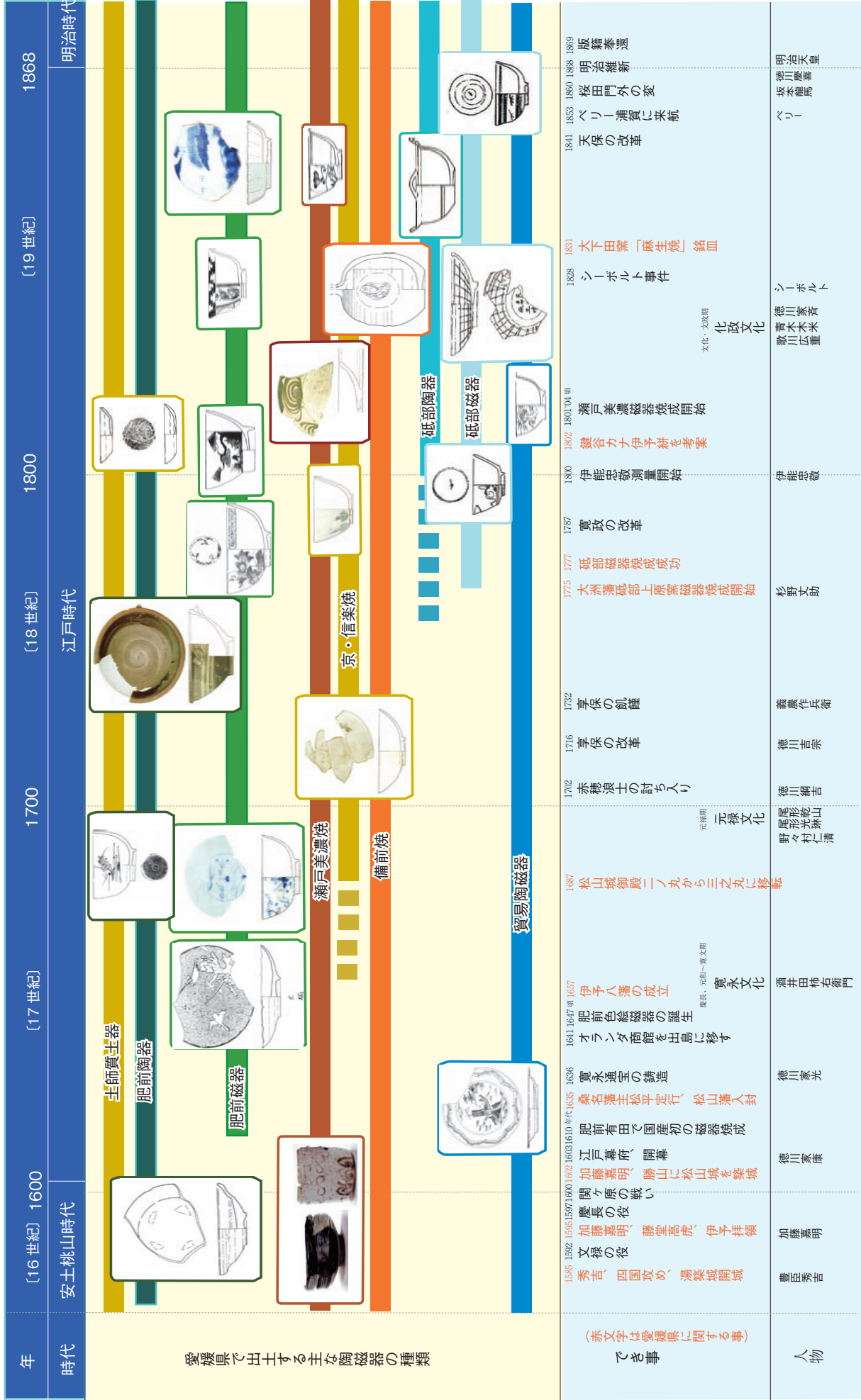
## 各地のやきもの

近世のやきものは中世に比べて器種が豊富で、色彩に富んだ製品が生産されました。代表的なやきものは肥前陶磁です。ほかには輸入された中国産陶磁器、瀬戸美濃焼、京・信楽焼、三田焼、備前焼、萩焼、源内焼、壺屋焼などさまざまなやきものが伊予にもたらされました。時期によって異なりますが、在地産以外では、供膳具である碗・皿には肥前や瀬戸美濃焼、調理具である鉢や播鉢には備前焼、堺・明石焼、貯蔵具の壺・甕には肥前陶器や備前焼が多く認められます。

それぞれのやきものの産地では、窯跡の調査研究が進み、生産された時期によるやきものの形状の変化が明らかになってきました。消費地の遺跡では、これらをもとに遺跡や遺構の年代を決める手がかりとしています。



愛媛県で出土する近世のやきものの生産地



年表 愛媛県で出土する近世の陶磁器と主なできごと

# ひぜん 肥前陶磁器

現在の佐賀・長崎県の窯で焼成された陶磁器です。16世紀末の朝鮮半島の窯業技術の伝播により、九州北部で陶器の唐津焼が焼成されました。18世紀後半以降は瓶や壺・甕を中心に生産されました。

17世紀初めには有田で日本で初めて磁器が焼成され、17世紀半ばには色絵磁器も焼成されました。国内最大の磁器生産地で、日本各地に流通しました。江戸時代には出荷港の名前を取って「伊万里焼」とも呼ばれました。一方、長崎県の波佐見では18世紀には安価な日用品の磁器である「くらわんか」が量産され、全国に流通しました。

西暦	碗	皿	波佐見	西暦	碗	皿
1610				1580	I	
1650	II			1600		
	III			1650	II	
1700	IV-1			1700	III	
1750	IV-2			1750	IV	
1800	V			1800	V	

肥前碗・皿の編年図

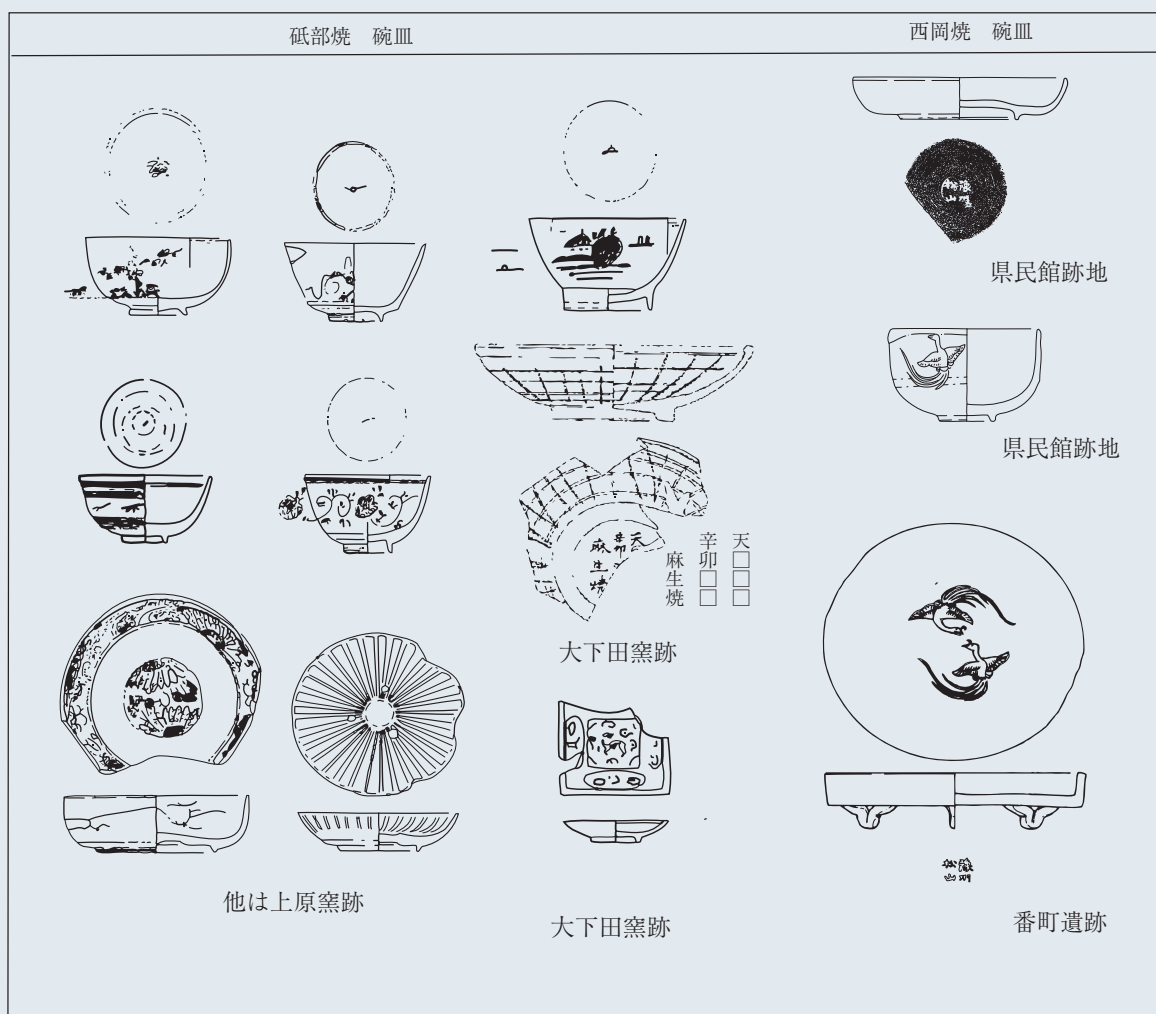
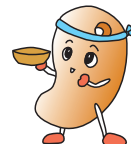
江戸遺跡研究会 2001『図説江戸考古学研究事典』、九州近世陶磁研究会 2000『九州陶磁の編年』より作成

とべやき にしのおかやき

# 砥部焼と西岡焼

砥部焼は、江戸時代には大洲藩に属し、現在の砥部町とその周辺の窯で焼成された陶磁器です。当初は陶器を焼成していたとされていますが、肥前の技術を導入して安永6（1777）年に磁器の焼成に成功しました。陶石の発見や窯業技術の改良により、幕末期には胎土の白い磁器の日常雑器を大量に生産しました。

西岡焼は松山藩に属し、現在の東温市の窯で焼成されたやきものです。江戸後期には「豫州松山」などの銘のある文人趣味的な陶磁器も焼成しました。

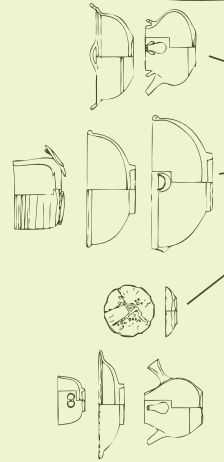
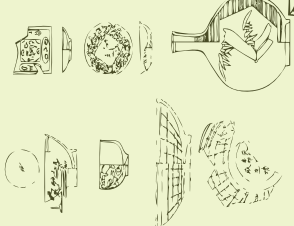


## 砥部焼、西岡焼の図

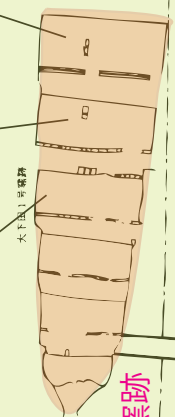
愛媛県埋文センター 2000 『県民館跡地』、松山市教委 2006 『番町遺跡』、石岡ひとみ 2008 「近世砥部焼磁器皿に関する基礎的研究」『愛媛県歴史文化博物館研究紀要』13号より作成



5号室土瓶出土状況



1号窯跡



スズキ橋

大下田1号窯跡



2号窯跡



2号窯跡



1号窯跡



1号窯跡

おおげた かほもと  
大下田窯跡は、砥部町上原町に所在し、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センターが  
1982年に愛媛県総合運動公園整備に伴い発掘調査した、江戸時代の窯跡です。2  
基の運房式登窯が検出されました。

1号窯跡からは、碗、皿、土鍋、急須などの陶磁器が出ました。「天□□  
辛卯□□ 麻生焼」と書かれた皿が見つかったことから、天保2(1831)年には操  
業していたことがわかります。

2号窯跡では、施釉瓦を焼成していたことが明らかになりました。  
江戸時代の砥部焼の様相をうかがいしることのできる貴重な遺跡です。

## 砥部町 大下田窯跡

(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター 1984 『愛媛県総合運動公園整備計画埋蔵文化財調査報告書1』  
石岡ひとみ 2007 『近世砥部焼磁器碗に関する基礎的研究』 『研究紀要』 12 愛媛県歴史文化博物館より作成

## 近世のいろいろな遺跡

愛媛県内で発掘調査された近世遺跡には、城跡、武家屋敷、農村集落、墓などがあります。

城跡では、国指定史跡の整備を中心に継続して調査が行われ、松山城三之丸や周辺の武家屋敷が調査されています。県民館跡地（松山市）では礎石建物や土塀跡、道路、溝などの遺構が見つっています。

農村集落跡は、調査事例が少ないため、井門Ⅱ遺跡（松山市）の調査は松山平野の農村部の様相をうかがい知ることのできる貴重な遺跡です。

墓跡は、丘陵部にて調査が行われ、矢田平山近世墓（今治市）では、集団墓地が形成され、墓道が整備されていたことがうかがえます。キセル、小杯、六道銭などが副葬されていました。

上三谷墓地（伊予市）では、小石に一文字づつ経文を書いた一字一石経が見つっています。



南北道路

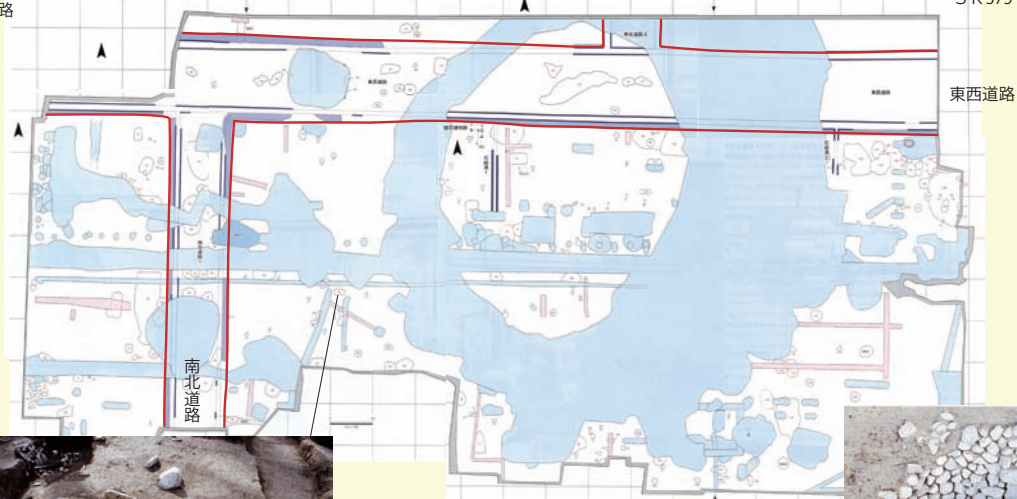
### 県民館跡地平面図（江戸末期）

県民館跡地は、松山城三之丸に位置し、愛媛県美術館建設に伴い、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センターが発掘調査しました。

東西、南北道路遺構や家臣の武家屋敷跡などが検出され、大量の生活道具が出土しました。記録や絵図などから三之丸には中級から上級の武士が居住し、幕末には、調査区内には11軒分の屋敷地が存在することが明らかになっています。「戸田」家もその一軒です。



S K 375 埋められた甕と鉢



S K 54 水溜遺構



S E 09 石組井戸

(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター 2000  
『史跡「松山城跡」内 県民館跡地』より作成



「戸田」の銘のある陶磁器（県民館跡地）



「豫州松山」などの銘のある西岡焼（県民館跡地）

## 近世のいろいろな遺物

近世の遺跡からは、大量に遺物が出土し、土器・陶磁器<sup>とうじき</sup>、金属製品や石製品、木製品やガラス製品があります。これらは人々の衣・食・住の生活に密着した道具類で多彩な品々があります。

食器の碗、皿のほかに、調理に使用された鍋や鉢、片口<sup>かたくち</sup>、飲酒のための徳利や小杯<sup>とつくり しょうはい</sup>、文字を書くための文房具である石硯<sup>すいてき</sup>、水滴<sup>すいてき</sup>があり、なかには文字が書かれた陶磁器なども出土します。紅猪口<sup>べにちよく</sup>や鬢水入れ<sup>びんみずい</sup>、櫛<sup>くし</sup>やかんざし<sup>かんざし</sup>、けしろう<sup>けしろう</sup>など化粧の道具も見られます。植木鉢<sup>うえきばち</sup>や金魚<sup>きんぎょ</sup>を飼育したと考えられる鉢も出土しており、武士が動植物を愛でていた姿がうかがえます。タバコを吸うためのキセルも見つっています。人々が食べた貝殻<sup>かいがら</sup>や魚の骨もあります。江戸時代の夜は暗かったので、灯りの道具も数多く出土します。なかでも遊び道具には、羽子板<sup>はごいた</sup>、鳩笛<sup>はとぶえ</sup>の他に土人形やミニチュア製品があり、動物や人形、ままごと道具<sup>ままごと</sup>や箱庭道具<sup>はこにわ</sup>など様々な造形を見ることが出来ます。



ミニチュアのおもちゃ（県民館跡地）



ミニチュアの鯛車（県民館跡地）

平成 22 年度テーマ展

「時代のものさし～近世～」

平成 22 年 10 月 25 日～平成 23 年 2 月 25 日

協力機関

伊予史談会・愛媛県教育委員会・愛媛県歴史文化博物館・

国立国会図書館・砥部町教育委員会・松山市考古館

本書は石岡ひとみが作成した。



番町遺跡 2 次出土焔炉の表面  
に押された馬のスタンプ

財団法人

愛媛県埋蔵文化財調査センター

The Ehime Research Center  
for Buried Cultural Properties



〒791-8025

愛媛県松山市衣山4丁目68番地1

<http://pc2.ehimemaibun-unet.ocn.ne.jp/>

TEL 089 (911) 0502

FAX 089 (911) 0508

主催／財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター

後援／愛媛県教育委員会

発行：平成 22 年 10 月 25 日